

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年12月1日(月)

# みんなの居場所

## 強歩会の話題

私は教諭時代から担任する学級集団に対して多くの行事を実施し、掛け替えのない思い出を作ってきました。担任をこなすにつれて、着任した学校で保護者の皆様から「風の噂で聞いたのですが、澤田先生は以前から…」という話を伺い、掛けられ、部活動やPTA活動として多くの行事を実施してきました。その中でも最も反響が大きく、実施回数が多い行事は「42.195km強歩会」です。この行事は、保護者の皆様や以前担任していた児童（O.B.）の参加も多く、一度参加するとやみつきになる人も多いようです。目的は「頑張ったくらいでできる目標に、主体的、協働的に取り組み、全員で達成感や成就感を味わう。」この行事について、府本小でも少し話題になりPTA執行部の皆様と情報を共有したところ、「府本小学校でも、PTA行事としてやってみたい」ということになりました。自由参加ですのでこれ程の参加者があるかわかりませんが、これまで実施してきた学校では、今年から参加者がありました。参加者は間違いないく、お金は買えない掛け替えのない物を手に入れることができます。

今後、準備を本格的に開始いたしますが、現状だけ連絡します。令和8年3月7日（土）実施予定です。府本小学校をスタート・ゴール地点とし、スタートは午前5時、ゴールは午後5時を予定しています。年明けには参加申込書配付予定です。

【雑感】歳のせいかな…  
私は休日も結構仕事（特にみんなの居場所の執筆）をするんですが、折角の休みですから遊びもします。フットサルしたり、読書だったり、DVD鑑賞だったりです。先日録りためていたテレビ番組を早送り再生で見ました。

さて「水戸黄門」を見る機会がありました。「コンセプトは「勧善懲悪」なのでしょ、非常に分かりやすい内容です。水戸の「老公の」助さん角さん、懲りてやりなさい！」に象徴されるように、悪事を働く者を懲りさせます。水戸黄門を見ていて、ストーリーを想像しながら最後は「この紋所が目に入らぬか〜」となる、スカッとするのですが、最近予期せぬことが起ります。感動して泣いてしまうことがあるのです。最近、感動的な場面涙が出るんです。歳ですかね。

「水戸黄門」のストーリーは、何となく最近の家族像や子供像、親像を写している様な気がします。例えば、自分の子が悪かった、その時親は子の首根っこ捕まえて先方に謝りに行くのです。「この度は、息子が〇〇ちゃんに嫌な思いをさせて、本当に申し訳ないです。ごめんなさい。それに対して嫌な思いをした子の親は「こちらこそです。これからはお友達として仲良くしてくださいね。」となります。自分ファーストの今の時代、そういう考え方をしてみようには、少し考えて欲しいです。

最近どうでしょうね、互いの思いに心を寄せる場面はあつていようか？時代が変化しても「不易」は変わりません。加速度的に変化したとしても、人の心は相手思いやることかできます。「思いやり」等の、人の心の不易な部分はいつの時代でも変わらないものです。私は教師として「不易」「流行」とどちらも敏感でありたいし、徹底的に伝えていきたいと考えています。

## シリーズ「自分を語る」#509

前回は交通事故の話でしたね。今回はケガの話は反響が大きく、よく保護者の皆様から話しかけて頂きます。

平成13年度末を迎え、先生方と一緒にサッカーをしていた時のことです。まだ30代前半だった私は、気持ちも荒っぽかったのですが、サッカーのプレイでもよく人と当たってに付けていました。サッカーが終わって、手を洗った時、左手の薬指の異常に気が付きました。手を洗った時に、左手の指が右手に引っかかるような感覚でした。確認するために手を握った時に、開いた時にみるみる、開いているつもりなんですが、何故か左手中指の第一関節が直角に曲がっています。私が意識して曲げている訳ではありません。（第1関節ならともかく、第2関節だけを意識的に直角に曲げるのは大変です。痛みも何もないので、ちょっと怖くなってきました。「何だこれは…」と、恐る恐る曲がっていた部分を右手で伸ばしてみましたが、すぐ元に戻りました。私の意に反して、また直角に曲がります。まるでバネの様に元に戻ります。元に戻るのは直角に曲がったときです。この状態で「前にならねー」を言うと、他の指はきちんと伸びて「前にならねー」をしているのですが、中指だけが右側を向いてしまっていて「右にならねー」をしているのです。それを見ていた職員は「なんそれ、とぎやんじだ」と笑いながら見えています。私はどんなに怖くなって、保健室の先生に相談すると「すぐに整形外科に行きなせー」私の気持ちはどんな不安になっていきました。あまの触るといけないのかもじゃないかと思い、保健室で頂いた保冷剤で冷やしながら移動しました。痛みは全く無かったので冷やしてもまだ冷たいたので、それが逆に不安をあおりました。

整形外科に到着、事情を説明して早く診てもらおうとしたのですが、看護師さんは順番通りに対応されました。この症状はよくあるとだったので、あまの看護師さんにも驚かれました。この症状は「レントゲン」を撮りました。その写真ができたところで診察室へ。先生は「二三笑顔です。」「あー、センセーやっちゃったね。これね、指の上に通っている筋があるんだけど、その筋が切れた状態。つかえ棒が無くなった状態だから、反対側の筋の力が勝って、今みたいに曲がっている。その筋は早く治したければ手術しかないよ。（え〜って思う私）でもね、これで手術する人って殆どいないよ。ていうかないよ。（じや、治療は…と呟く私）治療は固定するだけ。確実に元に戻すためには3ヶ月固定する。そしてレントゲンで固定を外すかどうか判断するの。」「そうか、ていつか何となく納得しながら、処置を受けながら先生の話を聞いていて、こんな言葉が聞きました。「スワンプネック変形」「スワンプ、すなわち白鳥ですね。白鳥の首の形に似た変形というのですね。」「言い得て妙…」、なんて感心している場合じゃありません。私の左手中指は、指の腹の方から添え木をあてられ、逆方向に指が戻る様な形で固定されました。これから3ヶ月、風呂に入る時は左手に「ニール袋」風呂から上がると指を固定した状態で、アルコール綿消毒を行いました。こうして3ヶ月が経過し、固定を外すOKが出ました。ホッとしました。あの時は。（つへ）